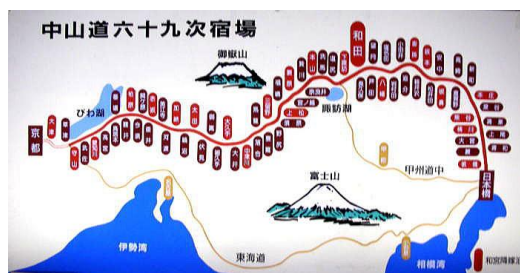


寅さん歩 その19

バーチャルウォークで

中山道（東下り）を歩くー3



平野 武宏

バーチャルウォーク東海道五十三次で京都・三条大橋に到着した寅次郎、帰路はバーチャルウォーク中山道六十九次で江戸・日本橋へ戻ります。

今回は各宿場を紹介しながら、京都からの中山道（東下り）を楽しみます。

各宿場の紹介は山と溪谷社の「歩いて旅する中山道」を参考にしました。写真は無料画像を使用しています。前は武佐宿から番場宿まで歩きました。今回は醒井宿から垂井宿まで歩きます。

[醒井宿] 滋賀県米原市醒井 最寄駅 JR東海道本線 醒ヶ井駅

2024年2月17日醒井（さめがい）宿（京都・三条大橋から78km）に到着しました。「水の町」で西行水、十王水、居醒の湧水といわれる「醒井三水」の湧水を集めた地蔵川が街道に沿って流れています（写真下左）。居醒の清水は醒井の名の由来にもなった湧水で、伊吹山の太蛇退治で遭難しかけた日本武尊がこの湧水で熱を冷まし、気分を回復させたという話が伝わります。地蔵川ではバイカモが揺れています。バイカモ（梅花藻）は夏には梅の花のような小さな白い花をいっぱい咲かせます。水温が摂氏15度前後の湧水にしか成育しません。地蔵川のバイカモは夏に限らず四季に見られます。

写真下右は素朴な和菓子「六方焼」です。中身は白あんでサイコロのような立方体で六面から焼きあげるのだから六方焼きの名が付いたとのこと。手作りで一つ一つ形が違います。



[柏原宿] 滋賀県米原市柏原 最寄駅 JR東海道本線 柏原駅

2024年2月19日柏原宿（京都・三条大橋から83km）に到着しました。
1.4kmにも及ぶ大きな宿場で街道筋に古い家屋（写真下左）が残っています。
町の目の前にそびえる伊吹山は古くから薬草の産地として知られています。
ヨモギでつくったもぐさは灸に使用され「伊吹もぐさ」として街道の名物でした。
当時は10軒を超える店があったとのこと。

写真下右はお灸にちなんだ「やいとうどん」で、とろろ昆布の上の紅ショウガがお灸です。町のカフェで食べられます。



[今須宿] 岐阜県不破郡関ヶ原町今須

最寄駅 JR東海道本線 関ヶ原駅

2024年2月20日今須宿（京都・三条大橋から87km）に到着しました。



伊吹山の影響で雪に悩まされ、この付近は交通の難所でした。一本道のいかにも街道らしい町で、写真上左は現存の間屋場家屋です。写真上右はこの地の豪族長江氏が建立した禅宗の古刹 妙応寺です。

ここまでが近江路でこれから美濃路（岐阜県）に入ります。

[関ヶ原宿] 岐阜県不破郡関ヶ原町 最寄駅 JR東海道本線 関ヶ原駅

2024年2月24日関ヶ原宿（京都・三条大橋から91km）に到着しました。古代に天武天皇が不破関を設けたのが関ヶ原の地名の由来です。関ヶ原宿は中山道の宿場というよりも、天下分け目の合戦の地（写真下左）としての知名度が断然勝っています。北国脇往還と伊勢街道の分岐点に当り、西に今須峠を控えていたため、多くの旅人で賑わいましたが、宿場としての繁栄ぶりを偲ぶ史跡はありません。わずかに脇本陣跡（写真下右）が残っています。



[垂井宿] 岐阜県不破郡垂井町 最寄駅 JR東海道本線 垂井駅

2024年2月26日垂井（たるい）宿（京都・三条大橋から97km）に到着しました。ケヤキの大木の根元から湧く清水があり、垂井の名が生まれ歌枕の地として有名です。この水を利用して美濃紙を漉いたといわれます。美濃路の追分を控えて交通の要衝として栄えた宿場です。写真下左の亀丸屋は200年以上続く旅籠で今も旅館を営んでいます。建物は1777年（安永6年）の築で2階の蓮子格子の出窓など往時のままです。宿場の中ほどで南宮大社の大鳥居（写真下右）が道路を跨いでいます。

鳥居の近くには地名の起こりとされた垂井の泉が湧いています。



本龍寺（写真左）の山門は脇本陣の門を移設したものです。
住職 玄潭は芭蕉と親交が深く、裏手に芭蕉句碑が立つ、芭蕉の足跡が感じられる町です。

今回はここまでとします。

平野 寅次郎 拝